

当も整合していない。今後の
是正について問う。

答 評価の本人通知とフィー
ドバックは現在実施している。
人事評価実施規程と評価基準
は、令和8年10月をめどに策
定する。給与条例の改正は令
和8年中の定例会で対応した
い。成績率に基づく勤勉手当
の支給は、令和9年度支給の
反映をめざす。

戦争遺跡を生かした 地域活性について

問 宇須々木、鵜来島戦争遺
跡の重要性や保存状態を問う。

答 宿毛湾は大艦隊の停泊に
適し、大正10年から昭和17年
にかけて多くの艦隊が入港し、
戦艦大和の航行試験でも知ら
れる。

宇須々木は艦隊の訓練を支
える港として、昭和8年頃か
ら旧帝国海軍の航空隊が常駐
し、戦況が悪化した昭和20年
には、第21突撃隊の本部と第
8特攻戦隊の司令部が置かれ、
豊後水道全域の防衛拠点の役
割を担っていた。

宇須々木戦争遺跡は、貯油
庫、魚雷調整壕や避難壕、飛

行艇の駐機場、海への上げ下
ろしスロープ、誘導灯の柱や、
内陸の円形貯水池などが比較
的良好な状態で保存されてお
り、当時の軍事施設を知る上
で極めて重要な資料である。

鵜来島戦争遺跡は、太平洋
戦争開戦時に豊後水道の防衛
拠点として整備された。竜頭
山山頂に砲台3基、探照灯、
測距儀、弾薬庫、山中には潜
水艦を探索する防備衛所、係
哨施設跡が点在し、島全体が
要塞化されていた当時の緊張
感を今に伝えている。これら
の貴重な遺産は見学できる状
態にある。

問 教育や地域活性化の活用
可能性を問う。

答 戦争遺跡は、当時の人々
の生活や思いを具体的に想像
させる貴重な教材であり、こ
れらの活用は学習指導要領の
趣旨にも合致する。

戦争遺跡を素材にした歴史
観光、教育ルートとして確立
できれば、他の観光資源と連
携した滞在型誘客につなげら
れると考える。

鵜来島砲台は、登山道整備
や維持管理、ガイド育成、調
査研究や資料展示などに課題
が残るが、今後も観光資源へ

の活用研究を進めたい。

問 戦争遺跡を活かしたまち
づくりについて、市長に問う。

答 平和・歴史学習をテーマ
とした教育旅行や、歴史に触
れる観光拠点とし活用したい。
平和の尊さを伝える目的を
大切にして、観光資源として
確立することが重要と考える。
ボランティアガイドなど、
市民が主体的に関わる仕組み
づくりも重要と考えており、
いろいろな形で、市として関
われたらと考えている。



堀 景 議員

宿毛市立小中学校再 編計画について

問 義務教育9年間を一貫し
た視点で支える小中一体型施
設を西地区高台にも整備する
ことが、教育環境の充実につ
ながるのではないか見解を問
う。

答 地域の実情、将来の学校
規模を見据えた、より柔軟で
持続可能な教育環境の構築が
必要である。現在の本市の出
生数を基に、将来的な児童生
徒の推移を試算した結果、小
中一体型施設を建設した場合、
かえって適正な学校規模を維
持することが難しくなること
が分かった。そのため、今回
の再編計画案では、学校の施
設の形態にかかわらず、義務
教育の9年間を見通した系統
的な教育活動により、教育効
果を高める小中連携教育を市
内全域で推進し、今後の少子
化に対応することとし、学校
規模は、小学校では1学年20
人程度の単式学級、中学校は
1学年2学級以上の学校規模
を基本としている。再編計画
案では、咸陽小学校と大島小
学校を統合のうえ、市役所東
の山林を造成し、移転する計
画としており、片島中学校は
今後学校規模が一定以下となっ
た際に統合を検討する。

問 アンケートの自由記述の
欄には高台への移転を求める
切実な意見が多数あり、命の
安全を求める保護者の本音が
表れている。この声を重く受
け止めて再検討すべきと考え
が見解を問う。

答 出生数の減少を見据えた
中で、片島中学校だけでは将
来的に学校規模を維持するこ
とが困難であることから、統
合による対応が最善であると
判断した。

今後においても生徒数の推
移を見極め、保護者、地域の
方々と協議する中で学校再編
に取り組んでいきたい。

問 片島中学校学校運営協議
会より要望書が提出され、署
名活動も実施し、多くの方々
の署名が集まっている。この
切実な声を計画案や見直しに
反映させる考えはないか問う。

答 地域の皆さんが子ども達
の安心安全な教育環境の確保
を強く望まれている表れであ
り、大変重く受け止めている。
地域の意見、要望を真摯に受
け止め、引き続き丁寧な説明
と協議を重ねて参りたい。

問 本市の津波浸水区域内に
ある全ての学校が被災した場
合、児童生徒の学校生活はど
のように維持するのか具体的
な対応は策定されているのか
問う。

答 発災後は学校が避難場所
となり、通常の学校再開には